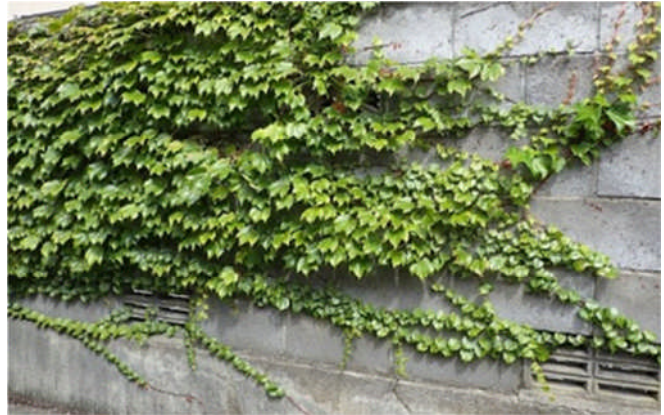


No.463

ツタ きゅうばん かべ ～吸盤で壁をつたう、ブドウのなかま～

壁にはりつくようにして広がっている植物は“ツタ”という名前の木です。ものをつたって伸びていくことから、この名がつけました。

壁をつたうという独特の生き方や葉の作りなど、ツタは観察するとおもしろい、すごく個性的な植物です。



■吸盤ではりつく

壁から落ちない理由は、小さな吸盤をたくさんもっているため。6～7個の吸盤がついた小枝を互いちがいに茎から出し、これを壁にはりつけて体を支えます。吸盤は、イカやタコのように吸い付くものではなく、はじめはしつとりと粘りつき、次に細くて短い根のようなものを出して、強くはりついていく仕組みです。吸盤のある小枝は、茎の反対側の葉と対になっていますから、葉が変化したものであることがわかります。



■葉の形が2タイプ

葉には、1枚型のもものと3枚型のものがあります。1枚型は日当たりの良い場所に多く、3枚型は日かげの場所や地上で芽生えて間もない時によく出ます。



■実はブドウ

ツタはブドウ科の木。毎年、茎のほぼ同じ場所から葉を出し、生長すると葉のわきに花をつけ、秋に濃い紫色の小さなブドウのような実をつけます。実は渋くて人間には食べられませんが、鳥は平気で食べるようです。



■紅葉が美しい

秋には美しく紅葉します。光をたくさんあびていた葉はあざやかな赤色に、日かげになっていた葉はだいたい色に色づきます。中には、いつまでも中心部に緑色を残すものもあります。

■柄を残して落葉する

冬が近づくと、葉の平の部分^{ひら}が先に落ち、柄だけが茎に残ります。この状態が3日ほど続き、やがて柄も落ちて、枝が壁に残って冬を越します。

ツタは身近^{みぢか}にあって観察しやすい植物です。一年を通して観察をつづけ、君だけの新しい発見をしてください。
(太田道人)